

未来のために自然の森づくり

どんぐり1000年の森植樹会

NPO法人どんぐり1000年の森をつくる会による植樹会が3月16日、山之口町青井嶽国有林で開催されました。18回目を迎えた今回の植樹会には、同会の会員や趣旨に賛同した親子連れなど約500人が参加。苗木の植栽方法の説明を受けた後、アラカシやクヌギなどの苗木2,500本を、約0・8ヘクタールの国有林に植栽しました。母親と参加した坂元太駆くん（有水小2年）は「土に触れるのが大好き。今日、植えた苗木が、大きく丈夫に育ってくれるのが楽しみ」と目を輝かせていました。

春の神事で豊作祈願

東霧島神社春季例大祭

五穀豊穡を祈願する春季例大祭が3月21日、東霧島神社で開催されました。毎年、同神社の氏子らに参加して行われる春の神事。氏子らは、鬼が一晩にして積み上げたと言われる荒く急な石階段を、島津家久公から寄進されたみこしを担いで勇壮に下りました。また、会場内では、弓道大会や太鼓の披露なども行われ、たくさんのお客様でにぎわいました。吉山文菜さん（高崎小6年）は「みこしが重くて大変だったけど、みんなで力を合わせて最後まで歩きました」と、息を弾ませていました。

見どころ満載 霧島ジオパーク

霧島ジオパーク「フォーラム・ジオツアー」

霧島ジオパーク「フォーラム・ジオツアー」が3月21日、開催されました。午前中は市内のホテルでフォーラムを開催。同推進連絡協議会による活動報告をはじめ、企業や団体からジオパークを活用したユニークな取り組みが発表されました。また、午後からは、ジオガイド添乗のもと、関之尾滝やごろが轟、御池などをバスで見学しました。参加した濱畑大海さん（早鈴町）は「各団体の地道な努力に感心しました。自然保護や教育、観光など多様な活用に期待しています」と話していました。

一瞬の静寂の中、的を射る

都城弓まつり全国弓道大会

全国一の竹弓の生産量を誇る「日本一の弓のまち都城」を広くPRしようと、都城弓まつり全国弓道大会が3月22日・23日の2日間、早水体育文化センターで開催されました。国内外から約2,600人の弓道愛好家が出場。中学生・高校生・一般の部に分かれて、日頃の練習の成果を競い合っていました。第1回大会から参加している朝隈敏子さん（福岡市）は「弓師の皆さんも代替わりしたようですが、先代に負けない良い物を作っていますね」と、都城産の弓に満足していました。



春風を受けながら桜並木を快走

さくらマラソン

第6回都城さくらマラソンとウォーキングが3月29日・30日の2日間、高城運動公園周辺で開催されました。市内外から合わせて2、320人が、ハーフの部や、10キロの部などの種目に挑戦。起伏の富んだコースに、息を弾ませながら挑む参加者らには、沿道から暖かい声援が送られていました。29歳以下男子ハーフの部で優勝した奈須順平さん(国富町)は「向かい風もあつてきついレースでしたが、桜の花を眺めながら、気持ち良く走ることができました。」と大会を満喫していました。



親から子へ引き継がれる想い

庄内川こいのぼり

庄内商工会青年部によるこいのぼりの掲揚作業が4月6日、庄内川堤防で行われました。子どもたちの健やかな成長を願い、4月上旬から5月上旬にかけて行われる、庄内地区の春の風物詩。30本の竹ざおに掲揚された、大小150匹のこいのぼりは、色鮮やかに大空を賑わせていました。企画した庄内商工会青年部長の蒲生純さん(庄内町)は「私たちが子どもの頃から見てきた風景。次の世代の子どもたちへつないでいきたい」と、地域で大切にされてきた行事の継承への思いを話しました。



地域の安全を守る消防団

都城消防団辞令交付式

市民の生命と財産を守る消防団員の辞令交付式が4月6日、消防局屋内訓練場で行われました。18歳から61歳まで100人が新たに入団し、総計1,438人の団員が、地域の安全を守ります。式典では、前原秀洋新団長(平江町)が「市民の生命や財産を守るため、郷土愛を根幹に、高い規律心を持つて消防活動に励んでほしい」と激励しました。また、60年にわたり消防団活動を務めた莫根秀春前団長(栄町)を、名誉消防団長に任命。長年の功労を顕彰し、記念の半てんを送りました。



平和への誓いを新たに

都城特別攻撃隊戦没者慰霊祭

太平洋戦争中に、旧都城西・東飛行場から出撃した特攻隊員らを追悼する特別攻撃隊戦没者慰霊祭が4月6日、都島公園で行われました。慰霊祭は、特攻第一陣となった8人が、西飛行場から飛び立った4月6日に毎年開催。参列した遺族など136人の黙とうや献花などの後、黒木美紀さん(祝吉中3年)が「特攻隊の人たちは、光となって日本中を照らしてくれました。私たちはその光が消えないよう、戦争の苦しみと、平和への思いをいつまでも語り継いでいきます」とメッセージを述べました。





防災に関する知識を身に付け、 身近な人の安全に役立てる

私立鵬翔中学校 2年

内村 風太君 ふう た

防災に関する意識や知識、技能を高め、社会の防災力向上のために活動することを目的に、NPO法人日本防災士機構が認証する防災士の資格を県内最少で取得したのが、内村風太君（都北町）です。

昨年8月に開催された防災士の基礎研修を受け、今年2月に専門研修と試験を受けて見事合格しました。

内村君が防災士を目指したきっかけは、女性消防団員として活動する傍ら、昨年、防災士の資格を取得した母親の有希さんの存在。年齢制限のないこの資格の取得を勧められた内村君は、地域の防災のために活動する母親を見て、防災士の魅力とやりがいを感じていました。

加えて、東日本大震災にも大きな衝撃を受け、もしもの時に人に助けってもらうのではなく、自分の命は自分で守らないといけないと強く感じていました。

宮崎市内の中学校に通う内村君。限られた時間の中で、部活や学業との両立に苦労しましたが、その分、合格したときの喜びは大きいものでした。合格の喜びを真っ先に分かち合ったのも母親の有希さん。自分自身の防災意識を高

めるために役に立つ資格を教えてくださいましたことや、毎日の勉強を陰ながら支えてくれることに感謝の気持ちを忘れません。

防災士の資格を取得したことで、今までは何気なく通っていた通学路での避難経路を考えたり、危険箇所を友だちに教えたりするなど、身近なところから危機管理の意識が芽生えています。

もし、災害が起きたら、「まずは自分で自分の身を守ることが第一。そのとき余裕があれば周りの人に手を差し伸べてほしい」と話す内村君。「これからも人のために役立つような資格に挑戦したい」と、意気込みを話していました。





周遊列車 環霧島探訪

今回は、吉都線の終点駅「都城駅」を紹介します。

■「ななつ星」が停車する都城駅
都城駅は、大正2年10月に開業し、昨年、100周年を迎えました。

JR九州の日豊本線に吉都線が乗り入れる駅として、通勤や通学などで多くの人が利用する本駅。また、昨年話題となった日本発のクルーズトレイン「ななつ星in九州」が停車することから、多くの見学者が同駅を訪れています。



平成24年度には、駅敷地内にメガソーラー発電施設が整備され、エネルギー対策や環境対策で地域に貢献しています。また、施設内では、草刈り機から発生する二酸化炭素の排出を抑えるため、5頭

のヤギが放牧されていて、除草作業の大役を任されています。

■バリアフリー化で生まれ変わった都城駅

平成26年3月には、駅のバリアフリー化の工事が完了。改札から各ホームを結ぶ連絡橋が新設されるとともに、駅舎内には多目的トイレが整備されました。



連絡橋の壁材には、市内で生産された杉が使用されていて、木のぬくもりを利用者に伝えていきます。また、連絡橋の中には展望スペースが設けられていて、雄大な霧島山を眺めることができます。都城駅は、このバリアフリー化によって、車いすの利用者や重い荷物を持った人などが利用しやすい駅に生まれ変わりました。

◎問い合わせ

都城市総合政策課

☎ 23-2115

※環霧島地域のイベント情報、市ホームページで紹介しています



盆地生まれの元気をいただきます

1日の野菜摂取量は
350g

チキンの茶の葉巻き

※1人分171kcal、塩分0.2g

茶葉には、ビタミンBやE、カテキンなどが豊富に含まれています。カテキンは、脂肪吸収を抑えたり、血圧や血糖値の上昇を抑えたりするなどの効果があります。



この時期の茶葉は、葉がやわらかく風味がよいのでかき揚げや天ぷら、がねに入れてもおいしいです。



●材料（4人分）

鶏胸肉…300g 酒…小さじ2 こしょう…少々
茶葉…3g アスパラガス…2本
梅干し…2個 みりん…大さじ2 酢…大さじ2

●下準備

鶏胸肉…薄く広げ、酒とこしょうを両面に振り、片面にすり鉢ですった茶葉を振る
アスパラガス…肉の大きさに合わせて切る
梅干し…種を取り、細かく刻んでみりん和酢を加える

●作り方

- ①鶏胸肉にアスパラガスを乗せ、ラップで巻き、両端をねじりタコ糸で縛る
- ②①を蒸し器で約15分蒸す
(10分程度蒸したら、上下を返す)
※電子レンジでも同様
- ③一口大に切り、器に盛りつけて梅肉ソースをかける

◎問い合わせ 健康課 ☎ 23-2765

ちょっとひと工夫

アスパラガスの代わりに、ニンジンやさやえんどうなど旬の野菜を使っても食感や彩りを楽しめます。

